

項目	内容
名称	グロビン蛋白分解物、グロビンペプチド [英]Globin Digest [学名]-
概要	<p>グロビン蛋白分解物は、動物の筋肉中のミオグロビン、血液中のヘモグロビンのグロビン蛋白部分を酵素で分解して得られるオリゴペプチドである。ここでは、その中でもテトラペプチドのバリリン-バリリン-チロシン-プロリン (Val-Val-Tyr-Pro ; VVYP) について扱う。</p>
法規・制度	<p>■ 食薬区分 「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料) 」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料) 」にも該当しない。</p> <p>■ 特定保健用食品 ・グロビン蛋白分解物 (VVYPとして) を関与成分とし、「食後の血清中性脂肪の上昇を抑える」保健用途が表示できる特定保健用食品が許可されている。</p>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<p>・VVYPは、アミノ酸4個からなるテトラペプチドである (PMID:8637399)。</p>
分析法	<p>・ヒト赤血球ヘモグロビン由来のグロビン蛋白分解物をHPLCにて分析した報告がある (PMID:2818594)。</p>
有効性	
ヒ 循環器・ ト 呼吸器	

RCT

・健康または空腹時血清トリグリセリド値が高めの成人12名（平均45.7±3.1歳、日本）を対象としたクロスオーバー無作為化比較試験において、グロビン蛋白分解物1g含有ゼリーを高脂肪食（脂質40gを含む）とともに単回摂取させたところ、食後6時間までの血中脂質（TG、カイロミクロン、RLP-C、VLDL）の上昇抑制（AUC）が認められた。一方、遊離脂肪酸値に影響は認められなかった（2016139883）。

・健康または空腹時血清トリグリセリド値が高めの成人13名（平均42.6±2.7歳、日本）を対象としたクロスオーバー無作為化比較試験において、グロビン蛋白分解物1g（VVYP7.4mgを含む）含有茶を高脂肪食（脂質40gを含む）とともに単回摂取させたところ、食後6時間までの血中脂質（TG、カイロミクロン、RLP-C、VLDL）の上昇抑制（AUC）が認められた。一方、遊離脂肪酸値に影響は認められなかった（2016151364）。

消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
肥満	調べた文献の中に見当たらない。
その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献 [\(PMID:2818594\) Biochem Biophys Res Commun. 1989 Oct 31;164\(2\):894-902.](#)
 (101) 食品機能素材III CMC出版 太田明一 監修
 (2016139883) 健康・栄養食品研究. 2001;4(1):1-11.
 (2016151364) 健康・栄養食品研究. 2002;5(3):131-44.
[\(PMID:8637399\) Life Sci. 1996;58\(20\):1745-55.](#)